

けやき特別支援学校の活性化・特色化方針

(令和3年度～)

1 学校基本情報

種別	病弱	学部・ 学科	小学部 中学部	児童 生徒数	(男)15名 (女)13名	計28名
ホームページ	https://keyaki-sh.spec.ed.jp/					
アクセス	JR『さいたま新都心駅』より、徒歩7分 JR『北与野駅』より、徒歩8分 ＊1階または2階の南玄関から入り、南エレベーターで7階へ、お越してください。 ＊駐車場はございません。公共交通手段を御利用ください					
教育課程等 の特徴	小学部・中学部があり、教育形態としては、学校に登校する『通学による指導』と、病棟のベッドサイドに教員が訪問する『訪問教育による指導』があります。 『通学による指導』 学年ごとの『準ずる教育課程』と、学部ごとに1クラスの『重複学級』があります。 【週授業時数：25～29単位時間(学年相応標準時数)】 『訪問教育による指導』 『準ずる教育課程』もしくは『自立活動を主とする教育課程』から、指導内容を精選して、実施しています。【週授業時数：15単位時間(1日3単位時間)】 なお、教育形態については、治療方針等踏まえた医師からの指示を基本に、保護者・本人の了承を得て、決定していきます。					
特色ある 学校行事や 部活動	活動の充実 『病気療養中でも、活動を工夫することで、勉強や行事に取り組むことができる』を基本に、体育祭や文化祭、修学旅行等の行事についても、病院と連携を取りながら、実施しています。 ICTの活用 教室で授業を受けることが難しい児童生徒は、病室で教員と学習するだけでなく、教室の友だちと同時双方向通信技術を活用して、一緒に学習できるようにしています。企業(リコージャパン)様にも御協力いただきながら、テレプレゼンスロボットを使用することで、病室にいる児童が、社会科見学(さいたまスーパーアリーナ)にも、参加しました。					
家庭・地域 との連携	復学支援会議 退院時に、医師からの要望により、復学支援会議を実施しています。原籍校から、管理職、養護教諭、担任等に御来校いただき、医師から学校生活上の配慮事項、本校教員から学習上の配慮事項について、お伝えする場を設定しています。 その他 全児童生徒を対象に、医師から学校生活上の配慮事項について記載した用紙を原籍校に送付。別途、原籍校からの依頼に応じて、コーディネーター等が原籍校に巡回相談を実施。病気療養児のスムーズな復学に向けて、支援を行っています。 ＊高校生入院時学習支援 埼玉県立小児医療センターに入院中の、埼玉県立高等学校に在籍する生徒の学習支援をコーディネートしています。					
進路について	卒業時には原籍校へ転出するため、本校での卒業とはなりません。 【＊原籍校で、地元の友達と一緒に卒業を迎えてほしいため】 なお、入院が継続する場合は、原籍校で卒業、進学先の学校に入学後、再び本校に転入という、流れになります。					

(児童生徒数：R2.5.1現在、進路はR2.3卒業生の実績)

2 育成方針 『つながり』を大切にした学び

本校に在籍する子どもたちは、病気療養のため、家族や地元の友だちと離れた生活を余儀なくされています。本校に在籍していても、治療や体調によっては登校することが難しい場合もあります。このような生活の中で、子どもたちに少しでも、多くの『人』と接点を持ってもらいたく、本校ではICTを活用し、『つながり』を大切にした学びの機会を多く設けています。

直接会うことはできなくても、同じ時間に同じ活動を共有することで、『友だちと一緒に』を感じられるようにしています。



病室と教室（校外学習）の『つながり』



地元の学校と本校（教室・病室）の『つながり』



『つながり』をもっておくことで、登校や元の学校に戻るときに、疎外感が少なく スムースに元の居場所に戻ることができます。